

俵 賞

保



浅田 長平 君
(株式会社神戸製鋼所相談役)

わが国鉄鋼業に対する非凡なる指導力と学会基盤の確立

君は明治 44 年京都帝国大学理工科採鉱冶金卒業後直ちに株式会社神戸製鋼所に入社，大正 15 年製鉄部長，昭和 20 年社長に就任，追放を経て 27 年再度社長に就任，33 年会長，40 年相談役となり，現在に及んでいる。

この間 57 年の長期間に亘り鉄鋼業の育成伸長に力をいたすとともに，つねに学界の指導と意を注ぎその発展に努めた。その業績の主なものあげれば次の通りである。

すなわち君は官営製鉄所たる八幡製鉄所以外に製鉄業が成立しうるかどうか危ぶまれた民間鉄鋼業の揺籃期に神戸製鋼所に入社し，同社の発展に献身し，これにより民間に近代的製鉄業を創設することに力を尽した。

終戦後敗戦の痛手から壊滅状態にあつた日本の産業を復興せしめる基盤となるものは，鉄鋼業の再建であることを洞察し，いち早く同社の平炉に火を入れ，関西地区鉄鋼業の立上りを促進した。これは戦後における日本鉄鋼業のあり方を示す原動力となつた。

さらに日本鉄鋼業が優れた品質によつて世界の鉄鋼業をリードすることを早くから予見し，将来の需要に応じうる生産体制を整えるべきことを唱え，今日のわが鉄鋼業の基礎を築いた。

昭和 35 年君は日本鉄鋼協会会長に選出された。当時本協会は規模が小さく，わが国鉄鋼業の学術，技術の進歩発達を図ろうとする本来の目的を達成するに十分な活動をなしえない状況にあつた。君は会長就任とともに学会基礎の確立こそ鉄鋼業発展の原動力をなすとの認識の上に立って，協会の規模を拡大し活動を強化することを提唱し，関係各方面の賛同をえて本協会の画期的拡充強化を実現した。この基盤の確立により本協会は順調に発展し，今日では日本鉄鋼業を支える学会として国際的にも認められるに至った。また本会の発展は，学会基盤の確立，学会と業界の緊密な関係が，学会と業界が共に栄える道であることを示すものとして，わが国の学会全体にも示唆と希望を与えている。

以上の通り君のわが国鉄鋼業の発展，学会基盤の確立に対する功績は画期的なものであって，表彰規程第 16 条により俵賞を受ける資格十分であると認める。